

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

5月、平成28年度自殺対策白書が閣議決定、諸外国における自殺の現状が初めて詳しく分析された。人口10万人当たりの自殺死亡

率は、日本はワースト6位、特に女性はやワースト3位と高水準。1位のリトアニア、2位の韓国、3位スリナム、4位スロベニア、5位ハンガリーに続く状況。その状況下でことし2月に大阪府河内長野市で、10月には神奈川県座間市で自殺サイ

トを利用した連続殺人事件が大きく報道された。相手に自殺願望があったにせよ、正気の沙汰でない犯行の全貌解明が気になる中、書店で「漫画 君たちはどう生きるか」の著書に出合う。児童文学者

であり、雑誌「世界」の編集長を務めた吉野源三郎さんの小説をことし、羽賀翔一さんが漫画化、宮崎駿さんが久し振りに新作アニメに使用すると発言して話題になった本だ。原作は1937年刊

「君たちはどう生きるか」というテーマで、(一)が級友たちとのやりとりや、叔父さんとの対話を通じて、精神的に成長して行く内容だ。コペル君の父親は亡くなるまで銀行の重役、家には女中が一人、同級生には実業家や大

今をどう生きるのかを 考えさせられた著書と出会う

行、80年以上も読み継がれ、児童文学の形をとった教養教育の古典と紹介されているが、正直著書名を聞いた記憶も曖昧の中、今回漫画版を読んでみて納得する内容だった。ストーリーは、主人公コペル君(本名・本田潤一)が級友たちとのやりとりや、叔父さんとの対話を通じて、精神的に成長して行く内容だ。コペル君の父親は亡くなるまで銀行の重役、家には女中が一人、同級生には実業家や大

性」といったテーマで語られる構成だ。私の成長期にも、登場人物の叔父さんがいたらどうやらましくなる。書き尽せない内容が続くが、「人間の立場さがどこにあるのか、それを本当に君の魂で知ることだ」、「正しい道に従って歩いてゆく力があるから、こんな苦しみもなめるのだ」の叔父さんの言葉は60代の私の心にも、強く残る。そして.....
80年の月日を経て漫画化の手法で問う社会は今も変わってはいない



過去から学ぶ大切さでは、ひとりの人間として経験できることは限りがある。「学問とは人類の今までの経験をひとまとめにしたもの。だから過去から学んで、新しい未来を作っていく」の内容は、子供達にあって勉強しなくちゃいけないのと聞かれた時に伝えたいと思う。高齢化社会の中で、子供達をどう育てるべきなのか問う内容に感謝だ。
(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)